

論壇

モノがネットに接続

最近、新聞や雑誌などでさかんに取り上げられているIOTという言葉を知っているだろうか。Internet of Things (モノのインターネット)の略である。モノがインターネットをやるというのは不思議な気がするが、社会を変える大きな流れとなっている。

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

モノがネットに接続するのかが判明する。すべてのモノがゆっくりに移動していかない道は渋滞していると判断されるのだ。皆さんのスマホの中のグーグルマップを開けば、車のナビよりも正確で詳細な渋滞情報が提示されている。

街や建物のおちこちに設置されている防犯カメラも、インターネット

社会を変えるIOT

ットでつなげることが可能だ。たとえば犯罪者の写真をコンピューターに入れておくことで、防犯カメラの前を犯罪者が通ったらそれが警察に通知される、というよう

なことは技術的には実現可能であるはずだ。実際にそうしたことが現時点で行われているというわけではないが、

皆さんの多くが、コンビニで買い物をするときに、ポイントカードを提示すると思うが、これもインターネットにつながっている。

ビジネスに有効活用

日本の産業の将来も、このIOTの動きに大きな影響を受ける。すべてのものがインターネットにつながる世界を想像してほしい。

自動車、住宅、工場、機械、鉄道、荷物のタグなど、あらゆるものが無線でコンピューターにつながるようになる。自動車は自動運転の機能を利用して、交通体系に大きな変更を迫ることになる。

住宅がネットにつながることで、エネルギーの効率利用や高齢者の見守りなど、いろいろなことができるスマートハウスとなる。工場をインターネットにつなげる

試みはドイツでインダストリー4.0として国家プロジェクトが進んでおり、日本の政府もこれに刺激を受けている。工場が情報につながることで、日本の物づくりも大きく変わるだろう。

機械がネットにつながるという意味では、すでにコマツの建機が有名だ。海外で動いているコマツの建機の稼働や故障などの情報は、すべて日本のコマツのコンピューターに入ってくるという。この情報を有効に活用してビジネスを有効に進めているというのは有名な話だ。

大変な時代になったと感じる人もいるかもしれないが、情報技術によって社会は急速に変化を続けている。より多くの人にIOTに関心を持ってもらいたいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。